

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【三橋小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	算数や理科において「知識・技能」が身につけていない傾向が見られる。また、国語では、標準偏差が大きくなる傾向が見られ、得意な児童と苦手な児童のばらつきが大きくなっていることも懸念される。引き続き、ICT等を活用した個別最適な課題に取り組むことで、基礎的・基本的な「知識・技能」の習得に取り組む。
思考・判断・表現	読解力向上の研修の取り組みもあって、資料から読み取った情報を基に思考する問題にも、自信をもって解答できる児童が増えてきた。一方で、無回答率も高い傾向にあり、難しい問題に手をつけないうまま終わってしまう児童も見受けられる。間違っているかも知れないけど、自分なりに考えて解答する経験を授業の中で積み重ねていきたい。また、読み取った情報を活用して問題に取り組む学習を、今後も継続して取り組んでいきたい。
主体的に学習に取り組む態度	5・6年生の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合をどちらの学年も90%以上を維持し、1年生から4年生においても、ICTを活用した振り返りの実施や記録の蓄積を図り、主体的に学習に取り組む態度を育てていきたい。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・算数の「知識・技能」に関わる領域において、R4年度の自校の結果より向上させる。	⇒ 「ドリルパーク」や「スタサプ」などのデジタルドリルを活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の国語の「思考・判断・表現」に関わる領域においてR4年度の自校結果より向上させる。	⇒ 「読解力向上」の校内研修で、自ら『視点』を見つけて『読む』ことができる児童の育成に取り組む。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ 「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を実践し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より+1.8pt(国語+2.0pt、算数+0.9pt、社会+2.8pt、理科+0.2pt)で、全科目において前年度を上回った。	A
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査「思考・判断・表現」において、R4年度調査より+1.5pt(国語+2.0pt、算数+2.7pt、社会+2.1pt、理科+0.9pt)で、全科目において前年度を上回った。	A
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査の質問紙調査「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」において、肯定回答が5年92.7%、6年89.7%だった。この数値は、R4年度よりも向上しており、主体的に学習に取り組む態度が向上していると言える。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	算数では、50×40のような一の位が0のかけ算や、「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取る問題に課題が見られた。国語では、漢字の正しい使い方に課題が見られた。どちらも、問題をよく読み、前学年までの学習内容をもとに解答する必要がある問題であるため、読解力の向上や今までの復習に取り組む必要があると言える。
思考・判断・表現	国語では、問題文を読んで自分の考えを記述する問題に成果が見られた。一方で、それらの問題の無解答率も高く、記述問題にまったく取り組まない児童がいることも分かった。今後、授業の中で、自分の考えをもつこと、途中まででも自分の考えを記述できるようになることを身につけられるようにしたい。
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目に肯定的な回答をした児童は88%で、目標には達しなかったものの、埼玉県の前年度を上回るなど、良好な結果だった。今後、より一層、子ども主体の学びとなるよう授業改善に努める。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析 ※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。			
小3	R5年度さいたま市学習状況調査において、R4年度調査より国語+2.6pt、算数+3.5ptであった。算数の「知識・技能」においては、R4年度調査より+4.9ptであり、基礎基本の面で大きく向上が見られた。	小4	R5年度さいたま市学習状況調査において、R4年度調査より国語+1.6pt、算数-0.4ptであった。国語「読むこと」や「思考・判断・表現」において向上が見られ、読解力向上研修に取り組んだ成果が表れた。
小5	R5年度さいたま市学習状況調査において、R4年度調査より国語+2.5pt、算数+1.5pt、社会+2.2pt、理科-0.1ptであった。国語「読むこと」や「思考・判断・表現」において向上が見られ、読解力向上研修に取り組んだ成果が表れた。	小6	R5年度さいたま市学習状況調査において、R4年度調査より国語+2.8pt、算数+2.1pt、社会+3.2pt、理科+1.0ptであった。国語「読むこと」や「思考・判断・表現」、算数「データの活用」等の資料を読み取り解答する問題において向上が見られ、読解力向上研修に取り組んだ成果が表れた。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【三橋小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題> 算数・理科において課題が見られる。標準偏差が大きく、得意な児童と苦手な児童のばらつきが大きい。</p> <p><指導上の課題> ICTを活用した指導法の共有が必要である。</p>	<p>⇒ ICT等を活用した個別最適な課題に取り組む【単元内3時間程度】。</p> <p>⇒ 校内研究において、ICTを活用した指導法の共有を図る【月1回程度】。</p>
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 無回答率が高い傾向にある。</p> <p><指導上の課題> 学校課題研究テーマ「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実』への取り組み1年目なので、教員間の充分な理解や共有をよりいっそう図る必要がある。</p>	<p>⇒ 授業内で、思考・表現する時間を設ける【学びの指標アンケート設問4「自分ひとりで考える場面がある」で平均3.0以上】。</p> <p>⇒ 学校課題研究に計画的に取り組む【月3回程度】。</p>

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		<p>①結果分析(管理職・学年主任等)</p> <p>②詳細分析(学年・教科担当)</p> <p>③分析共有(児童生徒の実態把握)</p> <p>職員会議・校内研修等</p>
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>国語では、文の中における主語と述語との関係を捉える問題に課題がみられた。算数では「数と計算」の領域に特に課題がみられた。前学年までに習った漢字や言葉の使い方、除数が小数のわり算など4年生までの基礎的な計算に譲ってしまう児童も多いため、デジタルドリル等を活用して、基礎基本の定着に取り組みたい。</p>	
思考・判断・表現	<p>国語「読むこと」において課題がみられ、解答時間が足りなかったと感じている児童が約25%いる。前年度までの読解力工場の研修を活かし、文章やグラフなどの資料を読み取る活動を継続的にを行い、読解力を向上させていきたい。算数では、全国でも正答率の低い複雑な問題に課題はみられるが、無回答率は低く、最後まであきらめないで問題に取り組もうとする児童が多かった。今後も様々な問題に触れ、思考力を高めていきたい。</p>	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	C	各学級で、実態に応じたICTを活用した授業を実践しているが、その活用内容や頻度に差があり、今後より教員間での共有が必要である。	修正なし
思考・判断・表現	B	6月に実施した学びの指標アンケート設問4「自分ひとりで考える場面がある」で平均3.4以上であった。全国学力・学習状況調査の無回答率も低く、問題に粘り強く取り組もうとする姿が見られる。	修正なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)